

〔宮城県漁業協同組合「七ヶ浜町水産振興センター」建設事業〕
「種苗生産から自ら手がけ“みちのく寒流のり”ブランドの確立へ」
施設完成に伴い、竣工式が行われました。

10月19日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第4次助成先の一つである宮城県漁業協同組合（以下、宮城県漁協）では、かねてより建設中の「七ヶ浜町水産振興センター」が完成し、竣工式を執り行いました。

海岸沿いに七つの集落があったことから名づけられたという七ヶ浜町は、仙台から東に約20kmの宮城県中部に位置し、南は太平洋、東と北は松島湾と三方を海に囲まれ、起伏に富んだ景観や穏やかな気候にも恵まれた地域です。日本三景・松島の一角を成し、海水浴場やサーフスポットとしても広く知られています。

宮城県で唯一、ノリ種苗の生産を行ってきた七ヶ浜町の水産振興センターは、国内生産の最北端ノリ生産地として『みちのく寒流のり』のブランド力を高めるべく、種苗生産に取り組み、またマコガレイの種苗生産およびヒラメやホシガレイなどの中間育成、放流事業を行っていました。しかし、東日本大震災の津波により全ての事業はストップし、養殖業を営む生産者、漁業者は大きな被害を受けています。

宮城県漁協は、地域の養殖、漁業再建に不可欠な、『ノリの種苗生産・品質改良』『魚類・貝類種苗の中間育成』などの機能を有する水産振興センターを、避難施設を備えた3階建てで再建することを計画し、助成を申請しました。ヤマト福祉財団では、七ヶ浜町の漁業振興を早期に改善するため、復興のカギともいえる七ヶ浜町水産振興センターの再建費用として総額5億7000万円の助成を決定しました。

今年の3月4日に起工式が行われ、この度竣工式の運びとなりました。竣工式で菊地伸悦宮城県漁協経営管理委員会会長は「竣工を迎え、七ヶ浜の生産者の英知を結集し、この逆境を乗り越え必ずやノリ養殖とあわせ、漁船漁業の復興を成し遂げることを誓います」とあいさつをされました。



待望の竣工を迎えた七ヶ浜町水産振興センター



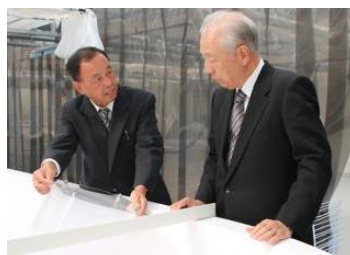
ノリ種苗を生産する糸状体培養棟



作業管理棟1階の実験室



「ノリ養殖と漁業の復興を成し遂げます」と菊地会長



アサリやなまこの栽培種苗生産棟で説明を受ける有富理事長

【新施設】

●鉄筋コンクリート造、地上3階 ●敷地面積：3,162㎡ ●延床面積：1,842㎡ ●作業管理棟（3階に避難所を設置）・ノリ糸状体培養棟・栽培種苗生産棟・資材・機材保管庫